

令和3年度 第5回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年8月19日(木)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後3時55分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 兼 米田 昭嗣
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

1 開会

定刻、定足数に達しており、令和3年度第5回教育委員会定例会を開会した。

2 令和3年度第4回定例会会議録の承認

承認

3 議事

報告第23号 垂水市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について

報告第24号 垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について

報告第25号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について

報告第26号 令和3年度垂水市一般会計補正予算(第6号)案についての
市長への意見申出について

議案第11号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について

議案第12号 令和4年度の中学校教科用図書(社会歴史的分野)の採択について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第23号 垂水市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第24号 垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第25号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について</p>	<p>垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第26号 令和3年度垂水市一般会計補正予算（第6号）案についての市長への意見申出について</p>	<p>令和3年度垂水市一般会計補正予算（第6号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第11号 垂水市教育委員会の事務の点検・評価について</p>	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p> <p>特記事項</p>	

<p>議案第12号 令和4年度の中学校教科用図書（社会歴史的分野）の採択について</p>	<p>自由社の新たに発行された図書については、県教育委員会において行う調査研究結果のほか、令和2年度における採択理由や検討の経緯等を踏まえて、総合的に判断し、採択替えを行わないこととするものである。</p>	<p>令和3年度中学校教科用図書（社会歴史的分野）について、自由社の「新しい歴史教科書」が再申請により、文部科学大臣の検定を経て、新たに発行されることになったことから、無償措置法施行規則第6条第3号により、採択替えを行うことも可能となっている。</p>	
--	---	--	--

議事内容等

3 議事	<p>報告第23号</p>
学校教育課長	<p>垂水市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について</p>
	<p>垂水市いじめ問題調査委員会の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。</p>
教育長	<p>報告第23号と24号は関連するので、24号の報告の後、まとめて質疑を行うこととする。</p>
	<p>報告第24号</p>
学校教育課長	<p>垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について</p>
	<p>垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。</p>
田原委員	<p>委員については、それに相応しい方々になっておられると思うので、言うことはないが、この二つの委員会の関係性は。これらの委員会は、いじめがあるとないと関わらず、毎年必ず開催されるのか。</p>
学校教育課長	<p>皆さん、ご存じのとおり鹿児島市の教育委員会が3件の重大事案を抱えている。これは、重大事案として県に報告しなかった事例として報道で大きく取り上げられているが、今全国的にいじめによる自殺問題が毎日のように報道されている。それに対して、第三者委員会を設置するための委員を選考しておきたいという考えから、前年度からいろいろ検討してきたが、今回こういう形で整ったので、第1回目を開催させていただいた。只今、教育委員が指摘されたとおりの要は重大事案が発生したら、まず5人の委員のメンバーに集まっていただいて協議を始め、いろいろな報告書を作る</p>

ことになります。いじめによる事案等はあってはならないのであるが、そういうことができる委員を選定したということである。また、この対策連絡協議会という 10 人の委員で様々な検討をしていって最終的に方向性を出し、もし報告書を作るとなったら、5 人の委員がしっかりそれを判定するという形になる。書類作成は当然事務局等が作っていくことになるが、重大事案が発生しないこと、2 回目の会がないことを祈りながら 1 回目を実施したところである。この会は、毎年必ず 1 回は実施したいと考えている。また、弁護士から様々な提案等があって、学校ではこういうことも弁護士がやっているなど、いろいろ紹介をさせていただいて、これらも活用できるのではと思う。今回、1 回目の会があったことが、非常に今後に繋がっていくと考えている。

報告第 25 号

垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について

社会教育課長 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。

質疑なし

報告第 26 号

令和 3 年度垂水市一般会計補正予算（第 6 号）案についての市長への意見申出について

教育総務課長 補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したことを報告するとともに、その内容について説明。

質疑なし

議案第 11 号

垂水市教育委員会の事務の点検・評価について

教育総務課長 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成することについて説明。

田原委員 外部評価委員の意見は、会議を開いた際に言われた言葉か、あるいは、事前に文書で回答されたものか。

教育総務課長 事前に渡して、文書で回答していただいた。出された意見等は、基本すべて記載してある。

田原委員 6 ページの外部評価委員の私達への意見で上から 2 番目●のところです。「保護者や児童生徒からの相談や意見を把握するために、尚一層の工夫をお願いします。」と書いてありますが、これは私達の努力事項だと思ってい

る。小・中学校の情報を得たいとするならば、PTAの役員や管理職、あるいは、そういう方々との接点を持てば、学校には直接言えないけど、教育委員にはちょっと相談しておこうかなということもあるかもしれない。情報を得るためには、そういった人達との接点を持つことが必要かなと思った。

次にそのページの真ん中あたりに、「今後も進んでいく少子高齢化・過疎化に起因する小学校の児童数減少による学校の在り方」とありますが、これは牛根地区あたりが早急の課題になってくると思う。日頃から情報として把握する必要があると思う。議会報告書が届いていたので目を通しましたが、その中でも記載されていまして、こういう報告書も気を付けていないといけないと思う。

それからGIGAスクール構想については賛否があるようで、期待半分、不安半分という感じである。これからは、勿論先生方もそうなのであるが、子どもたちがどれぐらい使いこなして学習ツールとして活用できるようになっていくかが、やっぱり子どもの姿が変わっていくことがGIGAスクール構想の成功に繋がっていくと思う。

8ページの垂水高校振興対策の問題だが、私も振興対策協議会に出席したので、今日の報告でも語りますが、外部評価委員からも意見が出ている。色々な形で支援も充実してきているし、校長先生を始め高校の先生方も一生懸命頑張っているにも関わらず生徒数が増えないという悩みがあるようである。生徒数が少ないということで、子どもたちは勉強だけでなく、部活動等色々な活動に興味があるわけで、高校に行ってやりたいとなった時に、やっぱり垂水高校の進学を躊躇してしまうところもあるのかなと思う。反面進学指導等は、ほとんど個別指導でやれる面もあるので、よい面もあるのであるが、そういった魅力が保護者・子どもたちに伝わっていないように思う。少人数故に生徒を引き付けるだけの魅力になり得ない部分があるのではないかと感じる。しかし、やっていることは先生方も一流の事をやっておられるし、市の協力・援助も素晴らしいと思っている。

教育長

今の田原委員のご意見に対して何か補足はないか。

教育総務課長

垂高問題については、私も授業を拝見したが、非常に素晴らしい授業であったと思う。先生方は生徒に考えさせる授業をされていた。自分も実際に授業を見て、すばらしさ、よさを感じるが、今言われるように魅力が伝わらない。実際に中3保護者に授業を見て貰ったら、高校選択肢の一つに加えていただけないかと思う。市の支援策としては、6サポートとして、毎年1千万円かけて頑張っているところだが、特に中央中の保護者は、支援があることを知らないのか、市内に目が向いておらず、高校＝市外という見方をされているという印象を受ける。本年度はできるだけ、中央中からの受験者を増やすため、教育委員会としても、中高連携であるとかお互いに意見交換をして協力態勢の強化を図っている。また、垂高在校生の出身中学校（13校）に出向いて垂水高校のPR活動を実施し、垂水高校も選択肢の一つとして検討してくださいとお願いをしてきたところである。結果として、第1回目の希望調査では期待した数字には届いていないが、できるだけ事は行っている。

田之上委員	垂水高校の支援については、通学費補助や家賃補助など、所謂、市外の生徒に対する補助は手厚いが、地元の生徒に対する補助では、検定料の補助など、微々たるものであり、あまり実感として感じられない。そのへんで、市外の私立高校に行けば、授業料が無料になるというと見た目は大きな補助を受けられるというような意識があるのかなと思う。
教育長	只今言われたような事に関しては、教育総務課長が今、案を練っている最中である。中央中から垂水高校へ行く生徒・保護者に対しても届くような施策を打ち出していこうと準備しているところである。
学校教育課長	本市が今県内で一番進んでいるとの評価をいただいているが、決して現時点で教師が負担感を持っているとは思っていない。何故かというと、教育委員会では、「できる事からやってください。こうでないといけない。」とは言っていない。また、「子どものペースに合わせてやってください。」と言っている。心配するのは、タブレットを使用することが目的ではないということ意識して、授業の中でもずっと使うわけではないし、1日中使うわけでもない。本当にこの授業の中で効率的な使い方を先生方が見だし理解して、これがいいという授業をつくり上げていくのが望ましい。それには時間が必要である。まだ、4か月なので今後を見ていただきたい。最終的には児童生徒の学力向上に繋がって欲しいというところが一番大きい。また、先生方にはいろいろ研究しながら進めていってほしい。
社会教育課長	コロナの関係で、色々な行事や事業ができなかったことが評価に繋がっているということである。本年度は、コロナ禍の中でも工夫しながら少しずつではあるが行事等を行っているところである。
	議案第 11 号 承認
学校教育課長	<p>議案第 12 号 令和 4 年度の中学校教科用図書（社会歴史的分野）の採択について</p> <p>令和 3 年度中学校教科用図書（社会歴史的分野）について、自由社の「新しい歴史教科書」が再申請により、文部科学大臣の検定を経て、新たに発行されることになったことから、無償措置法施行規則第 6 条第 3 号により、採択替えを行うことも可能となっているが、自由社の新たに発行された図書については、県教育委員会において行う調査研究結果のほか、令和 2 年度における採択理由や検討の経緯等を踏まえて、総合的に判断し、採択替えを行わないこととするものであることを説明。</p>
教育長	少し補足説明すると、この時期にも教科書は出せるが、協議会では、「昨年各教育委員会で承認をいただき選定した教科書であり、子どもたちも今の教科書に慣れ親しんでいて、今更他の教科書に変える必要性はない。」と判断した。よければ、このまま継続で現在の教科書を使用させていただけないかということである。

	質疑なし (議案第 12 号 承認)
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p>「垂水高校振興対策協議会に参加して」</p> <p>7月14日に垂水高校振興対策協議会があって、教育委員の代表として出会した。この会は、垂水高校の学校概要全般についての実情を知り、市としてどのような支援ができるかを検討する会である。垂水高校では、小学校での読み聞かせや家庭科の授業支援、地域のイベントや行事でのフィッシュガールの実演など、他の高校に見られない地域貢献の活動をしている。また、市の支援もあるフリーマガジン「たるたま」も他校に見られない立派さだと思う。生徒たちは、少ない人数で一人一人が精いっぱい頑張り、公立大学や専門学校への進学者も出てきている。明るく素直な高校生だと思う。学科も普通科が2年から進学コースと情報コース、生活デザイン科が3年生になったらフードデザインコース、ライフデザインコース、ファッションデザインコースなどに分かれていて、少人数のよさを生かして個別指導を徹底し、進学や就職に生かせる勉強ができるようになっている。</p> <p>それでもなかなか入学者が増えないことから、垂水高校は垂水中央中学校の全生徒と保護者へアンケートを取っておられた。その結果も見せてもらったが、生徒も保護者も現在の垂水高校へは、いい印象を持っている。しかし、今の生徒たちは、公立私立を問わず、「将来のなりたい職業に結びつく学校」、「好きなことや好きなスポーツのできる学校」などを基準に高校選択しているので、なかなか垂水高校への進学と繋がっていない。また、多様なニーズに対応できる学科を持つ私立高校の台頭も影響しているようだ。しかし、このような状況の中でも、高校の先生方は中学校と連携を模索し、垂水高校のアピールに精一杯努力されている。</p> <p>また、垂水市教育委員会も鹿屋市や錦江町、桜島、鴨池中、鹿児島南中など、垂水市近辺の錦江湾沿いの各中学校を訪問して、垂水高校の紹介や通学の支援策などを説明して回られたという。市がそこまでされるのですかと感心され、各中学校の先生方の印象に強く残ったことと思う。この会に出席するたびに何とかしなくてはという思いにかられる。解決をどうしたらいいかというところまではまだいかないが、そういった思いを持ったところである。</p> <p>「ラジオ体操と朝読み」</p> <p>夏休みに入って、第1週7/26(月)～7/30(金)まで、水之上校区の各集落ではラジオ体操と集落放送による朝読みが始まった。水之上地区公民館の青少年健全育成推進会議で提案され、各集落の子供会育成会が座談会を開いて、何日体操をするか、朝読みはどうするか等話し合い、育成会が</p>

中心になって実施している。育成会のお母さん方が忙しいので、最近夏休みの初めの週と最終の週 8/23～27 日までの合計 10 日間の実施の集落が多いが、集落の自治公民館の庭に集まって、親子でラジオ体操をし、朝読みの子供たちの声が集落内に流れるのは、昔から変わらぬ夏休みの風物詩としていいものだと思う。私も時々ラジオ体操の仲間に入れてもらっている。8月10日に開催予定だった水之上小学校での移動教育委員会が中止になり、残念な思いがした。地域の方々にとって、教育委員会がどういったものなのかを知り、また教育委員会に自分たちの思いや意見を聞いてもらえるまたとない機会なので、非常に残念な思いである。来年度はまた、必ず実施していただきたい。

葛迫委員

「第3回垂水街角美術館課外授業（流木アート）7月28日（日）」

垂水街角美術館では現在「向吉文男展」を12月12日まで開催している。この「向吉文男展」のオープニングイベントとして、7月18日（日）猿ヶ城溪谷森の駅たるみずで、第3回垂水街角美術館課外授業（内容は流木アート）を開催した。垂水市内の小学生や鹿屋市内の小学生を中心とした親子で40人の参加者が集まり、全員一点ずつの流木アートを制作した。指導者として垂水街角美術館で「向吉文男展」の向吉先生を招いての午前中2時間ほどだったが、こういう内容で課外授業を行った。向吉文男先生は現在鹿屋市在住。また、垂水市で開催される和田英作・和田香苗記念絵画コンクールの審査員でもあります。内容は、今、皆さんにお配りした新聞のコピーに書いてありますのでお目通しください。

まず、最初に向吉先生から制作上の注意があり「特にグラインダーや電機のコギリなどは自分だけで使わずスタッフの方と一緒に使うようにしてください。」という説明があった。説明が終わると、参加者たちは接着剤やサンドペーパー、グラインダー、きり、電機のコギリ等の道具を使いながら、様々な流木や松かさ（松ぼっくり）、軽石などを組合せ自由な発想でアート作品を創っていた。子どもたちも保護者の方々も時間を忘れたような感じで一生懸命に制作していた。様々な作品ができて最後に皆で並べて見たのであるが、向吉先生は、「海に流れ着いた流木は長い期間に石や砂、空気、水によって変化していきます。その流木に新しい命を吹き込んだことで親子一人一人の新しいアート作品が生まれましたね。」とのすばらしい講評がもらえて、子どもたちは大変喜んでいました。夏休み前の日曜日ということで、会場である「森の駅たるみず」ではキャニオニングや様々なイベントが開催されていた。我々スタッフも万全なコロナ対策のもとで開催し、怪我人なども出なかったことに安堵している。今後、来年以降の垂水街角美術館課外授業に向けていい収穫だったのではないかと思います。

田之上委員

「中央中学校評議員会に参加して」

7月13日に垂水中央中学校の今年度第1回の学校評議員会に出席した。本年度は、学校訪問が中学校はできなかったので今年初めて生徒さんたちの授業の様子を見せていただくことができた。授業参観では生徒たちがまじめにしっかりと取り組んでいる様子が伺えた。先生とのやりとりも活

発に行われており、タブレットの活用や、板書にも工夫が見られ、先生方の一生懸命さが伝わってきた。学校では、家庭へのお便りなどをペーパーレスにし配信に替えていた。登録を殆どの家庭がしているということで、印刷をする事務的な時間が省かれているのかなと思って、中央中は進んでいるなと感じた。

「夏休みの垂水児童クラブ」

夏休みの子供たちは、朝早くから夕方までの長い時間を、児童クラブの中で過ごしている。今年は最近ずっと雨が続いていて、外で遊べない日が続いているが、子どもたちは空き箱を使って工作をしたり、縫い物をして色々な小物を作ったり、上学年の子は紙飛行機飛ばし大会をしようと言って廊下で紙飛行機を飛ばしたり、音楽に合わせて創作ダンスをするなど、色々工夫しながら遊んでいる。朝、来た早々いきなり「暇だー。することがない。」と言う割には結構楽しんでいるようである。限られた空間に、しかも異年齢の大人で過ごすので、取っ組み合いをしていたり、言い合いをしていたり、トラブル続きの毎日である。コロナ禍で3密が大なので、本当に誰かが感染していなければいいなと祈るような毎日である。

先日は、3年生以上の子供たちが「救命救急の講習」を受けた。初の試みだったが、消防の方に3人来ていただき、実際に救急のお話を伺い実習を受けた。また、児童クラブでは、保護者の負担軽減のため、昼食の支援を数回行っているが、この支援のある日は来所する子どもが通常の1.5倍～2倍に増えるので、保護者はお弁当作りも大変なんだなあと思うことである。こども食堂さんにお世話になり感謝している。先日、俳句作りの本を届けていただいた。「この俳句は昔見たな。あー、この子だ、もう大人になっているだろうな。」とか思いながら懐かしく拝見させていただいた。また、挿し絵も至る所に写真がうまい具合に配置させており、すごく立派なものができているなと思った。この夏休み、子どもたちがよい俳句をつくってくれることを楽しみにしている。

「SOSの出し方授業」

7月14日に垂水小学校の息子のクラスで「SOSの出し方授業」があった。息子にとって、得るものがたくさんあったようで、家に帰って来てから色々話してくれた。「弱音を吐いてもいいんだって！」そこが凄く印象に残ったみたいだった。グループ活動では、友達が自分の長所を話してくれたみたいで、「自分は意識したことはなかったけど、友達がこんな風に見てくれていたんだと思って嬉しかった。」と日記に書いていた。道徳で「心の授業」をされていると思うが、息子は凄く有名な先生から教えてもらったと喜んでいて、親としても「すごくよかった。」と感じた。

2回目の「学びの教室」に参加した。久しぶりに会う友達もいたので息子は喜んで参加していた。また、「知らないおじさんがすごくよく教えてくれてよく分かった。」と喜んで帰って来た。

「シーカヤック大会」

シーカヤック大会は、ここ2年ぐらい土曜日開催だったが、今回は日曜

福里委員

日に開催されたので、主人も休みが取れて息子たちと一緒に参加できた。今年インターネットでの参加だったが、申込用紙が付いていれば参加しやすいのではと思った。主人は、「こぎ方などで、すごく子どもの成長を感じた。」と言っていた。見学者のなかには、「うちも一緒に出ればよかった。」と言っていた保護者もいた。「来年は一緒に出ましようね。」と誘ったら、親の方が、自分は体力が持たないと尻込みされていた。以前は昼食をしてから決勝戦が行われていたが、今年は午前中に全日程が終了したので、時間的にもちょうどよかった。その後は、バナナボートに乗ったりして楽しんでみたいだった。シーカヤック大会は、夏休みに親子で参加できるよいイベントなので、また来年も開催できればいいと思うことだった。

「俳句集」

俳句の冊子を息子が貰ってきたので、拝見させていただいた。季語が載っていたりして活用できそうで、すごくためになった。また、載っている句を少し変えたりしながら自分でつくってみるのにも活用できそうである。

教育長

コロナ禍の夏休みということで、子どもたちが今どんな生活をしてるか、非常に気がかりである。そういう意味で、出校日というのはすごく大事だと思う。他市町は、出校日を取り止めたところが多いが、本市は明日、出校日を執り行う。子どもの安否確認を含め、宿題の進行状況等、そういうところもやはり、担任、あるいはそれに関わる先生方が知っておく必要がある。加えて、残りの10日をどう過ごしたらいいか始動ができるということである。その結果、9月1日をすべての子どもたちが気持ちよく迎えて欲しい。これが一番の願いである。宿題が終わっていなくても、いまいが、堂々と胸を張って学校に出ればいい。決して教師は、宿題をしなかったのを責めない。これは大事なことである。鹿児島市はこれで事件が起きてしまった。「指導死」がないようにというところが一番気になる部分である。ちなみに9月1日は小・中・高校生の自殺が非常に多い日である。9月1日は教育関係者にとっては緊張する日でもある。そういう中で、例のスクールライフノート「心の元気」を、この夏休みに活用している学校もある。小さな学校だからできるのである。そういう意味では、やはりこれはよいアプリを入れたなと思っている。夏休みは子どもにとっては本当に楽しみなものです。子どもから、「夏休みにこんな楽しいことがあったよ。」とか、「こんな体験ができたよ。」とか、「これがよかった。」とか、そういったプラス言葉、プラスイメージの言葉を聞きたいものである。残りの夏休み、またよい時を過ごしてほしい。

次は、垂水小学校の金管バンドのことである。九州大会出場につきましては、前回課長の方から、報告があったとおりである。開催県が緊急事態宣言になってしまったということもあって、最終的に出場を辞退された。校長さんも、「こういう状況だから、本当は出場させてあげたいのだけれども子どもの安全を考えれば・・・。」ということで辛い判断をされた。子どもたちは非常に悔しく残念な思いをしていたと思うし、それを支える保護者も同様だと思う。6年生は確か13人いたと思うが、最後の学年だか

らと、保護者の皆さん、今年は行かせたいという思いが強かったと思う。前回もあったが、これで2度目である。だからこそお気持ちはよく分かる。だけど、一方では子どもの命の方が大切なので、いい判断をされたと思う。この悔しい気持ち、残念な気持ちは必ず次の活動に繋がると思う。

最後は、連日の避難所開設で、すべての教育委員会職員が大変だったが、2人態勢で連日泊って対応してもらった。なかなか眠れるものではない。皆さん、2～3時間の仮眠程度で非常に丁寧な対応をしてもらった。このような職員がいるから、やっぱり市民も安心して、避難所に来られるのである。私は、市民の方々はもちろんだが、まず職員に感謝したい。これだけ頑張ってくれる職員がいてありがたいと思う。市民館だけではなく、牛根公民館、新城いこいの家も避難所を開設した。避難所に職員を配置しても、結果、避難者が来なくて、それでもなお、やっぱり危ないところだからこそ、常に避難所を開いていますよという市民へのメッセージ、安心感というのはそれを支えてくれている教育委員会の職員がいてのことである。ただただ感謝しかない。これからもまた、そういう日があるのでよろしくお願ひしたいと思う。

6 閉 会